

そもそも

いつから三川エリアに

人が住んでいる？

↓平安時代には

縄文・弥生時代

山麓での採取・狩猟生活

庄内での稲作開始

古墳・飛鳥時代

奈良時代

712年

出羽国誕生

大和政権の政策で
移住してきた人々が
庄内平野を開拓

今から約3万8千年前、大陸から動物を追って日本にやってきた旧石器時代の人たちは、次第に各地の山麓に定住し、約1万年もの間、山の恵みで暮らしていました。いわゆる縄文時代です。庄内地方でも鳥海山や月山などの山麓で、この時代の遺跡が見つかっています。

その後、庄内の平地にも人々が暮らすようになり、奈良時代には大和政権が出羽国を建国。庄内平野の開拓と、それ以前から住んでいた人々（蝦夷）に対する防衛を目的に、北陸や東国などから人々を柵戸として移住させました。以来、律令国家体制が整えられていった庄内では、人々が田地を広げ、掘立柱建物に住み、租・庸・調を納税しながら生活をしていました。

三川エリアにおいても、平安時代のもので推定される助川遺跡や三田遺跡（横山）が発掘されています。北国の厳しい環境の中、集落を築いていた人々の姿が思い浮かびます。

出羽国の産物の中心はこの頃から米が主流！

779年

横山八幡神社創建

MAP 8

源義家ゆかりの神社I



八幡神社厨子
狛犬
最上義光寄進状
町指定文化財が
3つもあるよ！

歴史エピソード

豊前国(九州)の宇佐八幡を勧請したといわれる神社。平安時代後期、陸奥国で起きた前九年合戦(1051-1062)で源義家が戦地に赴く際、横山八幡神社に泊まって戦勝を祈願し、鷹の羽の矢2本と太刀一腰を奉納したと言われています。そして戦勝後には社領六石七斗を寄進とも。ただし『三川町史』によると、創建は16世紀初期との見方が有力のようです。

平安・鎌倉時代

荘園「大泉荘」に属し、生きる人々

1087年？

青山神社創建

MAP 14

源義家ゆかりの神社II



天然記念物の巨木
ハルニレは必見！

歴史エピソード

前九年合戦の21年後に陸奥国で起きた後三年合戦(1083-87)にまつわる逸話です。源義家が戦地に赴く際、常陸国(茨城県)の青山神社で戦勝を祈願しました。帰路は庄内に立ち寄り、青山神社を勧請。その村を青山と呼ぶことにしたといいます。

871年
鳥海山噴火



1189年
奥州合戦

1336年
南北朝の動乱

9世紀には大地震や鳥海山噴火などの天変地異が庄内を襲いました。それを受けて朝廷は出羽国に陰陽師を配置、月山と鳥海山の神々の位を上げるなどして国家の安定を計りました。

また平安時代から室町時代にかけて庄内には三つの荘園があり、三川エリアは大泉荘に属していました。平安後期、朝廷からの国司派遣がなくなると、現地役人が権力を持つようになり、武士の世の中へ。庄内では田川氏が何代かにわたって庄内一円の武士を統率していました。しかし平安末期、田川氏の頭領である奥州平泉の藤原氏が源頼朝軍によって滅ぼされると、田川氏も念珠ヶ関から攻め入ってきた頼朝軍と戦い、討ち死にしてしまいます。その後、鎌倉幕府の地頭として大泉荘に赴任した武藤氏は、戦場となった大泉荘の荒廃ぶりがひどくて年貢どころではない旨を幕府に報告しています。奥州合戦がいかに大きな戦だったかわかりますね。

室町時代となり、南北朝の動乱が起こると、その混乱は庄内にも及びました。武士たちは北朝方と南朝方に分かれ、生き残るための主選に必死。結果的に大泉荘は北朝方の上杉憲顕に与えられ(1361)、武藤氏が現地管理をしていました。

室町・南北朝時代

MAP 6
1425年
泉蔵寺創建

歴史エピソード
楠木正成の孫・楠木正勝（傑堂能勝）が創建したという逸話のある曹洞宗の古刹。寺の菊水紋は楠木家と同じとか。ここを拠点に三川に曹洞宗が広がり、泉蔵寺は後に横山城主武藤氏の菩提所にもなりました。



この頃、三川に曹洞宗のお寺が増えて、人々に禅宗が広まりました。

MAP 1 助川の福乗寺 (1438)

MAP 2 横内の長泉寺 (1458)

MAP 3 横山の光星寺 (1465)

江戸時代

三川は庄内藩と大山天領に最上氏による22年間の統治は、庄内地方の大規模整備の時代でした。その一つが赤川の大改修で、水路が安定した赤川からは青龍寺川や中川堰が引かれ、庄内平野の開発が進みました。

最上義光が没するとお家騒動が起こり最上家は改易へ。代わって1622年に庄内に入部したのが酒井忠勝公でした。庄内藩の始まりです。この頃、三川では押切新田村や成田新田村など新たな村が創設されました。1647年には新たに誕生した大山藩に角田二口村、善阿弥村、東沼村、尾花村、天神堂村が所属。この5村は大山藩が幕府直属の天領となつてからも大山領としての歴史を歩きました。

1668年、戊辰戦争の戦火が庄内にも波及。村々から多くの農兵が徴発され、訓練を経て戦場に派遣されました。三川にも84人という人数が割り当てられ、人々が赴いたとの記録が残されています。

戦国時代

1512年頃
横山城址
MAP 7



歴史エピソード

戦国時代、横山は広大な湿地が広がり、平城だった横山城は天然の要塞に囲まれて守りやすく、攻められにくい城だったといわれています。三川には他に「助川館」という館があり、館主の助川図書頭を頭とした助川党という地侍党があったとの説も。また現在の玉衝寺（ぎょくがんじ／三川町青山）がある地には「青山館」があり、覇権争いに巻き込まれ焼失したと伝えられています。今となっては想像もできないほどの戦乱が、三川の地でも起きていたのです。

↓ありました
庄内に戦国時代ってあったの？

1625年頃
山の神社
山の神のケヤキ



歴史エピソード
子どもと遊ぶのが大好きな山の神が祀られているというお堂は、お産の神様・夫婦の神様として信仰されてきました。その隣に樹齢400年超と推定される巨大なケヤキがそびえていて、町のシンボルになっています。

明治時代

横山村、東郷村、押切村の3つの村へ赤川に初めての橋が架かる

1868年9月、庄内藩が新政府軍に降伏。同年、明治時代が始まり、明治22（1889）年に横山村、東郷村、押切村の3つの村が自治体として確立します。

一方、地内を流れる赤川は、それまで城下町防備が優先され、橋が架けられませんでした。鶴岡と酒田をつなぐ横山の街道にも橋がなく、唯一の交通手段である渡し船の船着場はとても繁盛していま

1601年
庄内全域が上杉氏から最上氏へ
最上勢による上杉派の残党狩り、容赦なし

1622年
酒井家による庄内藩成立

1868年
庄内藩が戊辰戦争で降伏



この頃の橋の長さは145mで庄内一！
横山の菅原家が3代にわたって蛾眉橋づくりに貢献！

1873年
初代蛾眉橋完成
MAP 5



当初の読み方は「まゆげばし」。今は「がびきょう」！

1889年
三川エリアに3つの村が誕生

1893年

加藤七チ誕生

女性科学者のパイオニア



1893~1989。押切村の大地主加藤家の生まれ。北海道帝国大学卒業後、理化学研究所に入所。女性初の主任研究員として活躍しました。そのため現在、同研究所には、女性研究者のための「加藤七チプログラム」があります。

三川町の名誉町民
第一号！

大正時代

明治以降、乾田馬耕の導入などで飛躍的に発展した庄内の米づくり。稲の品種改良も明治・大正期に盛んに行われ、三川エリアにも何人もの民間育種家が登場し、新品種を育成するなど、庄内米の発展にとても寄与しました。

養蚕業も三川に広まり、特に東郷村の成田新田が盛んで、青山には製糸工場も開設されました。国道も整備され、電話の導入が始まるなど、地域の産業・文明は着々と向上していきます。

1883年

佐藤彌太右衛門誕生

三川が生んだ育種家



1883~1948。東郷村生まれ。庄内の風土に合った米を作ろうと、稲の品種改良に励み、「イ号」を育成。病気に強く、味も良いため、その後の稲作の発展に大きな成果を残しました。

両田川橋の建設にも尽力したことから
両田川橋は「彌太右衛門橋」ともいわれたよ

1922年

両田川橋完成

1911年
乗合バス登場



渡し場だった押切には
旅館や飲食店が軒を連ねていたよ

この頃、満州に
開拓民として行く人々もいました



1941年
太平洋戦争勃発

終戦近くになると
東京からの学童集団疎開も

昭和時代

昭和恐慌から太平洋戦争へ

関東大震災や世界大恐慌の余波が東北の農村地帯にも広がり、昭和に入ると庄内各地にも貧困が拡大しました。同時に戦時体制も進み、日中戦争が始まった昭和12（1937）年には、押切村で南京陥落の戦勝祝賀会が行われるなど、当初は村々も湧き立ちました。

昭和16年に太平洋戦争が始まると、勤労奉仕や集団疎開の受け入れ、家族の「無言の帰還」などが増加。昭和20年8月の終戦間際には三川の上空にも敵機が襲来し、酒田に爆弾投下が行われるなど、おびえる日々を送りました。

そして終戦。戦後の混乱の最中、農地改革による地主制の解体が進み、多くの小作人が解放され、農民の生活は安定したといわれています。



昭和30年 「三川」誕生

3つの村が集まって三川村へ

昭和28（1953）年、町村合併促進法が公布。山形県は横山村を鶴岡市に、押切村を藤島町に、東郷村を大山町に合併する計画を立てましたが、それぞれの村の希望と一致しませんでした。その結果、紆余曲折を経て昭和30年に横山村、東郷村、押切村が合併し、東田川郡三川村が誕生。村の名称は、3つの村の集落が赤川、京田川、大山川の3つの川の流域にあることから名付けられました。

三川村初代村長
本間安治



合併記念式典は
横山中学校体育館で
開催しました

「もぐり橋」と呼ばれた三川新橋は
赤川が増水すると沈む、珍しい橋でした。



もぐり橋 完成

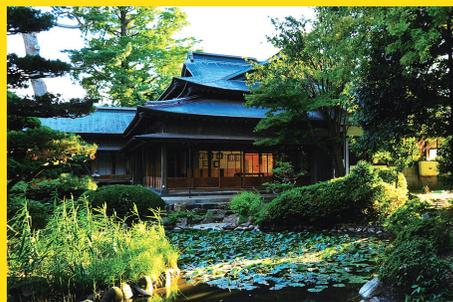
1961年

MAP
15



阿部徳三郎

1907~1994。庄内有数の大地主・阿部家の生まれ。京都大学、東京大学大学院などを経て戦後は山形大学でドイツ語や農村社会学を教え、「アトク先生」と地域の人々から親しまれました。



昭和初期、関東大震災で疎開していた建築家・宮島佐一郎が阿部徳三郎の住まいとして設計しました。現在は三川町文化交流館として一般公開しています。映画「おくりびと」のロケ地にもなりました。

三川町文化交流館 アトク先生の館

MAP
18

1928年

1894年
日清戦争勃発
1904年
日露戦争勃発

この年
庄内地震が起きて
押切村では
28名が犠牲に

乾田馬耕の導入で
庄内米の収穫が
急速に増加！

